



企画にあたって

大手信之

(名古屋市立大学大学院医学研究科心臓・腎高血圧内科学教授)

拡張不全とその臨床表現である HFpEF は表裏一体であり切り離すことができない。本企画では、拡張不全と HFpEF を一括して取り扱う。HFpEF の疾患概念・疫学、拡張不全の基本的診断、HFpEF における心筋構築異常（基礎疾患）、血管系の異常、心臓力学的背景、分子生物学的あるいは超微構造的発症機序、薬物・非薬物治療法等をもれなくカバーする構成を心がけた。

臨床現場において、HFpEF の直接的な発症要因としての立ち位置にある拡張不全を心エコー・ドプラ法によって診断することは重要であるが、加えて HFpEF 発症の基盤として、まず分子生物学的あるいは超微構造的問題点があり、これが心筋や血管の構造・機能変化を引き起こし、それが心臓力学的異常に繋がり、結果として心不全を発症する、という一連のプロセスを十分に理解していないと HFpEF の本質には迫れないのではないかと筆者は考えている。そして治療法はまだまだ十分には確立されていない。

これらの視点に立って、本企画はこの流れを網羅する構成になっており、その分野のエキスパートの先生方に執筆をお願いし、押さえておくべき基本から最新の知見までが読者に提供されている。また、最近 HFmrEF や HFrecEF という新しい言葉をしばしば耳にするが、これらを含め臨床医の興味を引くいくつかのトピックスについても取り上げた。本書を通読いただくことによって、相当に拡張不全および HFpEF の理解が深まるはずである。本書を明日からの HFpEF 臨床に役立てていただきたい。